

北海道浮魚ニュース

平成 14 (2002) 年度 5 号 (通巻 No.125)

2002 年 7 月 1 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

道南太平洋スルメイカ北上期調査結果

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間 : 2002 年 6 月 24 日 ~ 6 月 28 日
 - ・調査海域 : 道南太平洋 (渡島半島沖 ~ 日高沖 ~ 下北半島沖 ~ 津軽海峡)
 - ・調査船 : 金星丸 (イカ釣機 5 台、イカ用集魚灯 20 灯装備)
- 昨年 (2001 年 7 月 2 ~ 5 日、9 ~ 12 日) のデータと比較しました。

昨年に比べ、魚体サイズは若干大きいが分布密度は非常に低い

1. 水温分布 (図 1、2)

表面水温は、11.9 ~ 15.4 の範囲にあり、昨年に比べ 0.8 ~ 3.1 ほど低い値を示していました。特に、St.1 と St.16 ではそれぞれ 2.3、3.1 低い値でした。

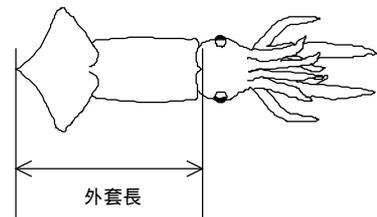
深度 50 m 層の水温は、St.1 と St.8 で昨年よりも 0.9 ~ 1.2 高く、他 2 点では 0.8 ~ 2.4 低い値を示していました。

2. 分布密度 (図 1、2、表 1)

調査を行った 4 地点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は、0.5 ~ 10.4 の範囲 (昨年 : 0.8 ~ 362) にありました。下北半島沖の St.8 を除く各点で昨 years を大幅に下回りました。また、全点の平均 CPUE は 4.4 であり、1995 年以降で 3 番目に低い値でした。

3. スルメイカの大きさ (図 1、2、表 1)

スルメイカの外套長 (胴長) は、調査点全体で 13 ~ 21cm (2001 年 9 ~ 24cm) の範囲にありました。モード (最も多く漁獲されたイカの大きさ) は 15 ~ 17cm にあり、2001 年 (モード 15、19cm) に比べると、St.16 でモードが 3cm ほど小型でしたが、他の点では昨年並みからやや大型の傾向を示していました。



4. まとめ

道南太平洋におけるスルメイカの分布状況は、比較的分布密度の高い日本海側の実態に反して、低水温のためか、魚群密度が低い状態にあると考えられます。

(文責 : 函館水産試験場資源管理部、TEL : 0138-57-5997 直通、FAX : 0138-57-5991)

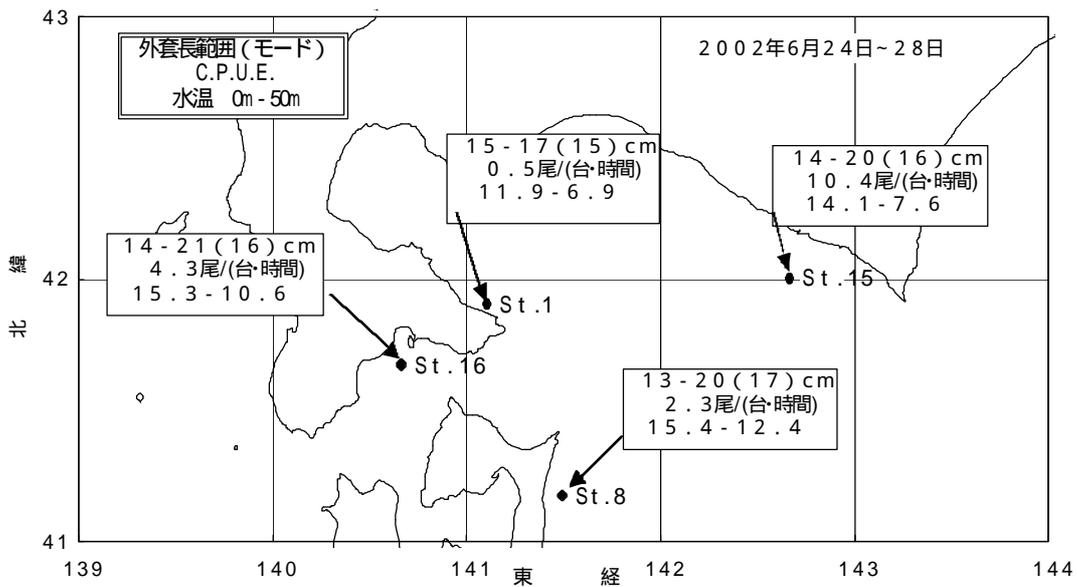


図1 太平洋スルメイカ北上期調査結果(2002年)

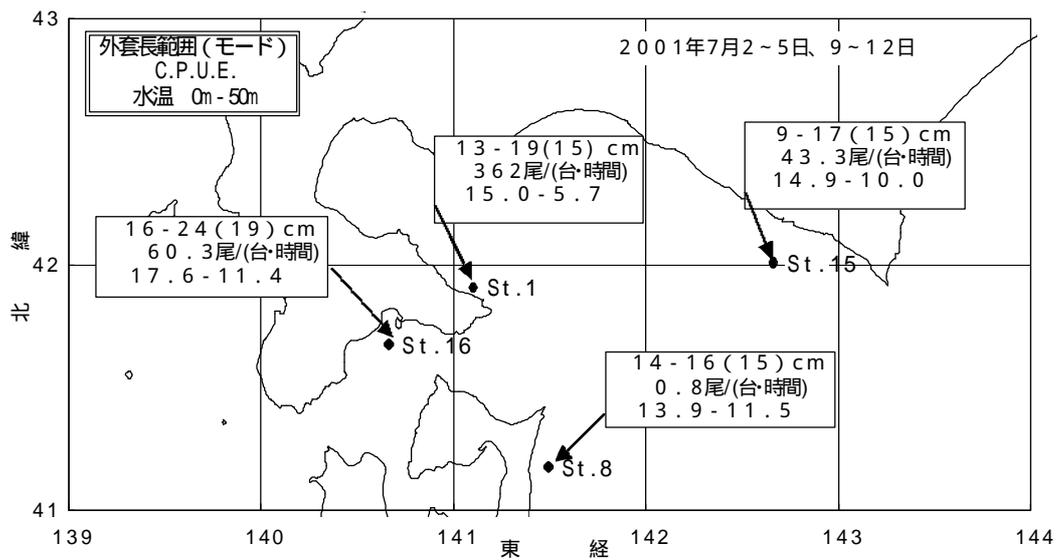


図2 太平洋スルメイカ北上期調査結果(2001年)

表1 道南太平洋スルメイカ北上期調査時のC P U E と外巻長の経年変化

	1995(H7)	1996(H8)	1997(H9)	1998(H10)	1999(H11)	2000(H12)	2001(H13)	2002(H14)
4調査点の	7/5-13	7/4-19	7/1-9	6/29-7/7	6/28-7/8	7/3-7	7/2-5、9-13	6/24-28
平均C P U E (尾/台・時間)	10.9	7.4	20.0	2.9	1.1	17.9	116.6	4.4
外巻長の範囲 (cm)	11-26	11-27	12-26	12-24	14-25	12-20	9-24	13-21
外巻長モードの範囲 (cm)	16-20	15-19	16-24	15-17	14-18	15-16	15,19	15-17